
IMAGE

麻未夢

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

I M A G E

【Nコード】

N 4 2 3 8 P

【作者名】

麻未夢

【あらすじ】

由加里は古風な女性だと、誰もがそう思っていた。だが由加里自身は、自身の持つそのイメージとは裏腹に、他の女性と何ら変わるところのない現代女性に過ぎない。それでも、彼女がどれほど努力をしたところで、そのイメージが払拭される事はなく、そしてそのイメージから一生逃れる事は出来なかった。

由加里は、もうとうの昔から「今時珍しい、『古風』な女性だ」などという、誉め言葉とも皮肉ともつかない言葉をかけられることに、すっかり慣れてしまっていた。

物心つかぬ内から、すでに親の取り決めた婚約者がいたこともまた、彼女のそんな『古風』なイメージをより強める事になったに違いない。

だが、他人の目にいくら『古風』と映ったところで、由加里自身の内面は、今時の他の女性とさして変わるものでもない。

幼い頃から、婚約者という存在を意識しない日は無かったが、だから尚更、本物の恋愛をしたいという欲求に火がついたのだろう。

友人を介し、そしてその友人によって『古風』な由加里に相応しいに違いないという基準で選ばれた、何人かの男友達との出会い。由加里が彼らと、休日と一緒に過ごすことだって珍しくはなかった。しかし、友人によって選ばれた彼らは、実に『古風』な由加里に相応しく、いつだって、それこそ『古風』な男女関係という道筋を1mm足りとも逸れる事は無かったのである。

由加里が望む恋愛とは、まるで真逆な彼らとの関係に、由加里は失望した。そして、友人に期待することを止めて、自分自身で理想の恋愛を求める努力もしたが、それも結局無駄に終わる。

誰もが由加里に『古風』なイメージを持ち、そのイメージ通りの『古風』な女性姿を由加里に対し求めていたのだ。

ただ手を繋ぐだけのことさえ、緊張する。そんな由加里を勝手にイメージし、彼らはともすれば、二人の間で互いに腕を伸ばせば届くという距離にすら、断固として入るまいとする不自然な態度を見せてくる。

彼らのそんな勝手な気遣いに対して、由加里は大いに失望した。そして、諦めた。

親の決めた婚約者と正式に結納を交わし、良い日を選んで何の滞りもなく式を済ませて、双方の両親からの祝いとして、『古風』な若夫婦が二人きりで暮らす家を貰い、そこで彼らに相応しい『古風』な暮らしを始める事に、由加里はもう逆らう気力すら持つてはいなかった。

幼少の頃から知る夫が、男女の立場の違いこそあれ、自分と似たり寄ったりの人生を歩んできた事を、ふとしたキツカケで知ったせいもあるかもしれない。

「初めから二人で付き合っていたれば、望んでいた通りの恋愛が出来たかもしれないね」

夫のそんな言葉に、由加里は寂しげに笑って、頷いた。

一年経ち、二人の間に男女の双子が生まれた。

『古風』な家、『古風』な両親、『古風』な暮らしの中で、この子供達をどんな風に育てるか、由加里と夫は互いの腕の中で眠る子供達を前に、顔を見合わせ微笑み合う。

「『古風』な男性になるに決まってるわね」

「『古風』な女性になるだろうね」

誰もがそれをイメージし、そうある事を望んでいるのだから、そんな風に育てるしかない。『古風』な夫婦はそうやって、『古風』な家族になる事を受け入れた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4238p/>

IMAGE

2010年12月11日02時35分発行